

日上山城と小瀬甫庵②

小瀬中務正秀正についての記録

先月号で、『太閤記』の著者である小瀬甫庵と寺和田の日上山城を本拠とする小瀬中務正秀正が同一人物ではないかという説があることを述べました。今回は、その小瀬秀正について、古文書の記録を基にたどっていきます。

秀正の生年は不明ですが、永禄9年（一五六六）、山陰の大名・尼子義久が小瀬才若という人物から愁訴され、三百貫の所領を保証する書状が残されており、年代等からこの小瀬才若という人物が秀正の若年の頃ではないかと推定されます。

その後、天正7年（一五七九）の備前の大名・宇喜多直家と毛利家との対立に際しては、秀正は宇喜多方に属し、市三郎兵衛らと共に宮山城（真庭市上市瀬・写真1）に籠もり、毛利軍を退けたという記録があります。天正12年（一五八四）の岩屋城（津山市中北上）攻めでも秀正は宇喜多方として攻城軍に加わり、城の西方にある井奥という場所に陣を構えています。その後も直家の嫡男・宇喜多秀家直属の小姓として仕え、豊臣

秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）では、小瀬助左衛門という人物が宇喜多家の重臣・戸川達安の配下として参陣し、武功を挙げています。この小瀬助左衛門は秀正の息子ではないかと思われます。

豊臣秀吉が亡くなり、豊臣方（西軍）と徳川方（東軍）の対立が色濃くなると、宇喜多秀家は西軍に属し、関ヶ原の戦いに参加します。この時秀正は戦には参加せず、作州に残り

高田城（真庭市勝山・写真2）の守りを命じられています。関ヶ原の合戦の直前、秀家は領地内の城を守る家臣の裏切りを防ぐために人質の差出しを命じており、秀正にも「息子の助六に弟があれば人質として差し出すように」という書状を出しています。この頃の宇喜多家の家臣名簿ともいえる「宇喜多秀家家士帳」には、小瀬中務正（秀正）が一〇〇〇石、小瀬助六が九四五石で召し抱えられています。この助六とはおそらく助左衛門のことでしょう。

関ヶ原の戦いで西軍が敗れると、敗軍の将となった秀家は薩摩（鹿児島）へ落ち延び、島津家の庇護を受けますが、戦に参加していない秀正も薩摩へ下り、秀家の側近として

仕えたことが記録にあります。後に秀家は徳川家へ出頭し、八丈島に流刑になりますが、秀正のその後は不明です。ただ小瀬家は寺和田に土着し、庄屋として代々続いていきます。こうして見ると、当時の史料からは秀正が小瀬甫庵であると確認できる史料はありません。ではこのような説は何が根拠になっているのか、また甫庵という人物の事歴は残されているのかについては次号で解説します。

参考資料：『鏡野町史』通史編・史料編、『久世町史』資料編第二巻、『美作国の山城』森俊弘氏の教示

お問い合わせ先
生涯学習課 日下
電話(0868)54-7733



写真1 宮山城跡(真庭市上市瀬)



写真2 高田城跡(真庭市勝山)

岡山県博物館協議会 スタンプラリー開催中

岡山県博物館協議会創立20周年記念事業として、スタンプラリーを開催中です。

県内76箇所の加盟館でスタンプを2個集めるとその場で三色ボールペンがもらえます。是非この機会にチャレンジしてみてください。スタンプカードは各館の窓口にあります。

町内の加盟館は「妖精の森ガラス美術館」、「鏡野郷土博物館」（パスタロッジ館2階）です。賞品はなくなり次第終了します。

実施期間

平成23年7月1日～9月30日

その他

県内の加盟館についてはインターネットで「岡山県博物館協議会」で検索してみてください。

